

KFCと尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモモ通信

2017年 7月



ハナモモちゃん

【発行】
河北新報普及センター
【協力】
尚絅学院大 河北仙版
【エリア】
名取市内
【部数】
11,600部
【電話】
022(266)2991



笑顔で指導を受ける子どもたち

名取こどもミュージカルと尚絅学院大表現文化学科が共同で開催した「名取こどもミュージカル フラワー・プラネットより「種」の花の星の希望」が7月8日、尚絅学院大学多目的ホールで上演されました。この公演は同大表現文化学科の講義の一つである表現文化特別演習のひとつで、今年で2回目になります。



コラボの力が作り出す舞台

名取こどもミュージカル×尚絅学院大

公演では名取こどもミュージカルが3月に行った定期公演の脚本をアレンジしたものの、演目の「フラワー・プラネットより「種」の花の星の希望」は本来2時間ほどある公演時間をこの公演に合わせて1時間ほどにまとめました。

学生たちは、自分たちで一つの事業を企画・運営し、舞台監督補佐や音響・照明・広告などの役割に分かれ公演の運営にあたり、表現技術、企画運営を実践的に学びました。

公演当日はたくさんの方が訪れ、用意していた椅子が足りず、急きょパイプイスを用意して対応するほどの大盛況でした。

コラボ公演のきっかけは去年、表現文化特別演習が科目として新しく設定され、科目担当教員の稲澤努准教授(39)が名取こどもミュージカル実行委員会にコラボの話を持ち掛けたことから始まりました。

当初は学生たちがこども祭りのようなイベントを企画し、子どもたちに出演してもらい、歌、ダンスの発表を行うという企画でした



用意された椅子は満席になりました

が、実行委員会側からの提案や両者が話し合いを重ね、ミュージカル公演を行うことになりました。

名取こどもミュージカル実行委員長の川村益男さん(65)は「歌やダンスだけでなく、ミュージカルでは音響や照明機材などを多く扱える。より学生の学びが多いと考えた」と当時を振り返りました。

名取こどもミュージカルと学生たちの合同練習が始まったのは今年の6月から。約1か月という短期間のなかひとつの舞台を作り上げるのはとても大変なことです。それがそれ以上お互い多くの学びと刺激を受けたようです。照明を担当し



上演の様子

た三品ひかりさん(19)、安田有花さん(19)、那須野由佳さん(19)、小野寺克樹さん(20)は全員が照明初心者。機材の名前や操作の仕方など覚えることが多いなかでの実習になりました。「照明のタイミングを合わせるには周りにも気を配ることが必要で大変だったが、舞台に関わっている、一緒に作り上げているという実感があり、とても楽しかった」と安田さん。

ステージ上の照明を担当した小野寺さんは「舞台袖で出番を待っている子供たちと一緒に緊張感を味わう中で自分も頑張ろうと思えた」と話しました。広報担当の三浦咲さん(19)は告知ポスターイラストと公演時の舞台背景イラストを担当。作成した背景イラストは合計4枚。約2週間という短い期間、睡眠時間を削りながら製作しました。「締め切り2、3日前の追い込み



照明担当の学生たち

み時期は辛い気持ちにもなったが子ども達の練習風景を思い出し自分も頑張ろうと気持ちを奮い立たせた」と話しました。

また、子どもたちからも「コラボならではの苦労、楽しさがうかがえました。ヒロ役を演じた田畑綺愛さん(12)は「コミュニケーションをとったり、息を合わせるのが大変だったが、学生さんが優しく接してくれて不安が解消された。舞台をみんなで作っていくことが楽しかった」と話してくれました。熊谷颯介君(13)は今回の公演で役が変わったメンバーの1人。「直前までセリフがあやふやでも不安だった」と振り返りましたが、舞台では不安を感じさせない堂々とした演技、歌を披露していました。



音響担当の学生たち

なくても調節されているがこの公演では学生さんたちと調節をしていかなければならず、改めて普段お世話になっているスタッフの方々へのありがたみを感じた。この公演をきっかけにみんなが周りへのありがたみを知り、感謝の気持ちを伝えようと演じるような機会になってほしい」と話しました。

今後のコラボ公演について総合演出の朝日雅宏さん(52)は「学生のやりたい事を演出にもより多く取り入れていきたい。今の段階では学生スタッフ側、子どもたち演者側双方の領域を守っている状態。その領域を超えて意見交換をし、学生がもっと演劇に関わっていきけるようにしたい」と思いを語ってくれました。



(亀山智美)

名取産食べ隊

ハナモモ記者が行く

焼きたてパンの店 **ボンヌ・ジュールネ**

天然酵母のパンに自信



焼きたてパンの店 **ボンヌ・ジュールネ**
宮城県名取市増田5丁目3-10 022-346-7106

名取市増田に今年で開店10周年を迎える、焼きたてパンの店「ボンヌ・ジュールネ」があります。「ボンヌ・ジュールネ」は、フランス語で「良い一日を」という意味。「うちのパンを食べて良い一日を送ってほしい」とオーナーの佐藤太一さんの気持ちが込められています。

店内には定番からオリジナルのパンが数多く並んでいますが、店のこだわりとして、一般的な店ではあまり扱わない「天然酵母」をパンの発酵に使用しています。この酵母を使用することで、焼き上げたときに中身はしっとりきめ細やかで、固くなりにくいパンが生まれるとのこと。

人気パンが多くある中で佐藤さんの一押しパンは、今年新作メニューとして開発した「幸せのブルーベリーブレッド(450円)」。生地にブルーベリーが練り込まれているだけではなく、中にはブルーベリージャムがざっしり。一口食べただけで、その名の通り「幸せ」な気持ちになりました。サイズも大きく満足感もたっぷりのパンでした。「ブルーベリーをたっぷり感じて欲しく、生地にもブルーベリーを練り込んだことで原価が高くなってしまいました。こだわり過ぎましたかね(笑)」と佐藤さん。それでも安価で提供するところが、佐藤さんの人柄を表している気がしました。

店のコンセプトとしては「家族で来て楽しめるパン屋」との思いがあるとのこと。店の中には、子供が遊べるスペースやドリンクバー(129円)が設置しており、大人だけでなく、子供でも楽しめる作りになっています。

店は旧4号線沿いに立つ「焼きたてパンの店」の看板が目印。ぜひ、1度は立ち寄って、こだわりの美味しいパンをご賞味下さい。

第28回全国トンボ・市民サミットが7月30日にサツポロビール仙台工場ゲストホールにて開催されます。全国トンボ・市民サミットは1990年に「神奈川県横浜市で開催した「トンボと水辺環境について情報交換会・交流会」から始まり、トンボ種の保護活動、水辺環境の保護、自然とまちづくりなど、開催地に合わせたテーマのもと、全国各地で行われてきました。本大会では日本鱗翅学会東北支部幹事・宮城昆虫地理研究会代表 阿部剛氏と日本トンボ学会会員・東北大学大学院農学研究科教授 牧野周氏による基調講演

「日時」7月30日(日) 10時~15時(9時半受付開始)「会場」サツポロビール仙台工場ゲストホール「参加費」1,000円(別途、弁当代850円)事前申し込みが必須です。申し込み・お問い合わせ先電話070(5476)1881事務局 大久保まで。メール: balloon-boy@live.jp



お知らせ

第28回全国トンボ・市民サミット名取大会参加者募集

尚綱学院大学エクステンションセンター主催イベント「しょうけい語らいマルシェ」が行われます。本イベントでは楽しいお話や場所を生むことを目的としています。学生や生産者の方々との交流を楽しみながら採れた野菜を購入できる市庭(いちば)となる

のち、各グループに分かれ名取市近隣地域で自然環境、生物多様性に取組む団体の活動紹介、復興の現状と自然環境活動についての情報・意見交換を行います。サミットでは一般市民の方々の参加も歓迎しています。グループワークに参加し、名取市の自然や環境保護について新しい発見をしてみませんか。



お知らせ

「会場」尚綱学院大学生会館入口付近
「お問い合わせ」022(381)3315
「日時」7月27日(木)11時半~13時



メール: renkei@shokei.ac.jp

プレゼント企画!

「ハナモモ記者が行く名取産食べ隊」にご協力頂いた、ボンヌ・ジュールネさんから商品を選ばせて5名へプレゼント!住所、氏名、年齢、電話番号、ハナモモ通信を読んだの感想、要望などを記入してメールかファクス、または郵送で先まで。7月30日締切。

住所 〒980-0022 仙台市青葉区五橋1の10
FAX (227) 8333
「KFCハナモモ通信プレゼント」係。

メール: hanamomo-kfc@kahoku-fc.co.jp